

風土記の丘の花だより²⁵⁹

今、そしてこれから見られる植物(2024年11月2日)

うっとうしい天気が続きます。山の草木は喜んでいるでしょうが、私たちは歩きにくくて困りますね。朝夕はずいぶん涼しくなり、大池のカモの数が増えてきました。今のところカルガモ、コガモ、マガモが見られますが、これから数も種類もどんどん増えていくことでしょう。



歩いていると、キンモクセイとは違った甘い香りが漂ってきました。見るとナワシログミの花が咲いていました。グミの花は小さくて目立ちませんが、とてもいい香りがします。このグミは今、花が咲いて春に実が赤く熟します。それが田んぼで苗代を作る頃にあたるので、苗代茱萸(ぐみ)という名前が付いたと言われています。昔はこのグミも子どものおやつでしたが、今はこんな酸っぱい実を食べなくても、甘くておいしいお菓子がたくさんあるので、子どもは見向きもしないことでしょう。



ご覧いただくとお分かりのようにこれはシダの仲間です。名前はカタヒバと言います。園芸好きの方がよく栽培されるイワヒバに似ていますが、イワヒバは葉が団扇のように放射状に広がるのに対して、カタヒバは片方に葉を伸ばします。それで「片ひば」なのです。万葉植物園の西の出入り口にあるベンチの後ろに少しだけ生えています。シダは花も咲かない地味な植物ですが、奥が深いので、興味を持って詳しく観察してみてください。(私は、まだまだ初心者、かじり始めたばかりです。)



秋の花、コウヤボウキが咲き始めました。小さな木ですがキク科の植物です。漢字で書くと「高野箒」、和歌山県の高野山の箒(ほうき)なのです。高野山は修行の場、様々な厳しい戒律があります。その中に「竹を切ってはいけない」というのがあり、掃除をするお坊さんたちは、竹ではなく、この木の枝で箒を作ったことから、この名前が付けました。(と、言われています、本当かどうかは・・・)でも、高野山の名前が付いているのは、和歌山県民にとってはチョット嬉しいことですね。



これも秋を代表する花です。ツワブキです。普通のフキに比べて葉にツヤがあります。名前の由来にはいろいろな説があるようですが、ツヤがあるので艶蔭(つやぶき)、それからツワブキになったという説が、私は一番納得できます。キク科の花に多いことですが、この花も例に漏れず、花に様々な変異があります。写真は花びらが細長いですね。いろんな花を楽しんでください。 松下